

## 全学の教員によって開講される前期課程科目について

平成 17 年 10 月 21 日作成  
平成 20 年 10 月 24 日加筆  
平成 24 年 1 月 27 日改定  
平成 25 年 10 月 25 日改定  
平成 27 年 3 月 3 日改定  
令和 2 年 11 月 16 日改定

東京大学教育運営委員会学部・大学院教育部会

### 教養学部前期課程カリキュラムの構成

- ・ 東京大学教養学部前期課程のカリキュラムは、リベラル・アーツの理念のもと、多様な学問的背景をもつ全学の教員の積極的な協力・連携によって支えられており、「基礎科目」、「展開科目」、「総合科目」、「主題科目」から構成される。
- ・ 「基礎科目」は、学部前期課程において身につけておくべき、幅広い専門分野において通用する基本的な知識と技能と方法を修得させるものである。必修科目であるが、文科各類については一部選択必修科目を、理科各類については一部任意選択科目を含む。成績は点数で評価する（※）。  
（※）ただし「初年次ゼミナール理科」の成績については合否の判定のみとする。
- ・ 「展開科目」は、「基礎科目」での学びをさらにみずから主体的に展開させるための素地・土壌となる能力の涵養、ならびに専門的な学びへの積極的な動機づけを図るものとして位置づけられる科目である。全科類とも任意選択科目である。成績は、人文科学ゼミナール、自然科学ゼミナールおよび文理融合ゼミナールは点数で評価し、社会科学ゼミナールは合否の判定のみとする。
- ・ 「総合科目」は、現代において共有すべき知の基本的枠組みを、多様な角度・観点から修得して総合的な判断力や柔軟な理解力を養う科目である。「L 言語・コミュニケーション」、「A 思想・芸術」、「B 国際・地域」、「C 社会・制度」、「D 人間・環境」、「E 物質・生命」、「F 数理・情報」の 7 系列に分類されている。科類により異なる系列の履修条件を伴う選択必修科目である。成績は点数で評価する。
- ・ 「主題科目」は、小人数クラスの授業を通して培われる深い問題意識と動機づけを修得する科目である。「学術フロンティア講義」、「全学自由研究ゼミナール」、「全学体験ゼミナール」、「国際研修」から構成されている。全科類とも 2 単位以上選択必修である。成績は合否の判定のみとする。

### 教養学部の教員によって開講される前期課程科目

- ・ 「基礎科目（初年次ゼミナール文科および初年次ゼミナール理科は除く）」および「主題科目」の「国際研修」は、教養学部の前期部会あるいは教養学部設置されている前期課程教育関係の委員会等が開講する。科目名はあらかじめ決定されており、「履修の手引き」に記載されている。教養学部関係を除く全学の教員への協力依頼は、責任母体からの学内非常勤講師の依頼の形でなされる（※）。  
（※）初年次ゼミナール文科および初年次ゼミナール理科については「全学の教員によって開講される前期課程科目」を参照。

全学の教員（※）によって開講される前期課程科目

（※）「全学の教員」とは、原則として本学の講師以上の専任教員（教授、准教授、講師のいずれかであって、特任教員でない者）のことを指す。「基礎科目」の「初年次ゼミナール文科」および「初年次ゼミナール理科」

- ・ 「基礎科目」の中の「初年次ゼミナール文科」は文科生の1年生を対象とした科目であり、高校までの知識の獲得を中心とした「学習」から、自ら問いをたて、調査し、思索を深めていく豊かな「学問」の世界に学生を誘うとば口に位置づけられる科目である。文系初年次ゼミナール運営委員会（平成27年度以降は初年次ゼミナール文科運営委員会）における調整を経た上で、全学の教員が開講する。
- ・ 同じく「基礎科目」の中の「初年次ゼミナール理科」は、理科学の1年生を対象とした科目であり、高校までの受動的に知識を授かる形での学びの意識を変革することで、大学において自発的に学ぶ姿勢を涵養することを目的とした科目である。理系初年次ゼミナール運営委員会（平成27年度以降は初年次ゼミナール理科運営委員会）における調整を経た上で、全学の教員が開講する。

「総合科目」

- ・ 「総合科目」は総合科目運営委員会の調整の下で、教養学部の前期部会、教養学部設置されている前期課程教育関係の委員会等、あるいは大学院総合文化研究科、および関係する後期課程諸学部が開講する。

「展開科目」

- ・ 「展開科目」は教養学部の委員会において当該科目としての適当性等についての検討・認定を経た上で、全学の教員が開講する。必要に応じて、開講学部等と協議を行う。

「主題科目」

「学術フロンティア講義」

- ・ 「主題科目」の中の「学術フロンティア講義」は、ある学術分野の最先端の研究動向や領域横断的な主題（テーマ）をめぐって、全学の教員がわかりやすく解説する科目である。
- ・ 授業形態は基本的に複数教員によるオムニバス形式講義を想定しているが、他の形態の授業を開講することも可能である。

「全学自由研究ゼミナール」

- ・ 同じく「主題科目」の中の「全学自由研究ゼミナール」は、専門的研究の一端に触れるとともに、学生がさまざまな部局の教員に接する機会を作るため、全学の教員が各自の関心に応じて自由な主題を設定し、概ね40名を上限とする小人数で行うゼミ形式の授業である。
- ・ 40名を上限として、講義形式で授業を行うことも可能である。
- ・ 学生が自主的にテーマと講師（学外者を含む）を選び、教務委員会の審議・承認を経て開講する枠もある。

「全学体験ゼミナール」

- ・ 同じく「主題科目」の中の「全学体験ゼミナール」は、体験を通じての学習によって幅広い教養を身につけることを目的として、全学の教員が、学内外でさまざまな

主題について体験学習の機会を提供する科目である。

- ・ 演習林や美術館・博物館に行つて自然や文化に直接触れたり、学内外でボランティア活動に従事したり、研究所や学部の研究室で先端的な装置に触れたりする授業を想定している。
- ・ 学生がテーマと講師を選ぶ枠は設けない。
- ・ 多数の学生の受講を想定する場合は、十分な数の教員が協力するなど、受講者が充実した体験をできるような配慮が必要である。

(参考)

東京大学前期課程教育改革問題検討委員会報告(平成5年3月16日)

東京大学教養学部教育・研究評価報告書5(平成9年7月)

東京大学学部前期課程教育2006年度カリキュラム改革報告(2006年12月)

前期課程における科目区分の特性について(2014年1月)